

令和5年度 西都市立妻北小学校 学校評価

学校の教育目標		「生きる力」を育み、心豊かでたくましく、主体的実践のできる児童の育成		学校経営方針	・児童一人一人が「主体的実践」できる教育活動の充実 ・チーム妻北小としての協働実践の推進 ・家庭・地域との相互信頼に基づいた教育環境づくりの充実	
重点目標	目標達成のための手段 (評価指標)	具体的方策	保護者からの評価・意見	学校運営協議会委員評価・意見	今後の改善策	
(1) 確かな学力の向上	<p>① 基本的な学習習慣及び学習規律の定着(話す・聞くこと、書くこと、読むこと)</p> <p>② 児童の実態に即した授業改善(めあてとまとめの整合性、ICT活用、協働的学び)</p> <p>③ 家庭学習の見届けと読書活動の推進</p>	<p>○基本的な学習習慣・学習規律の定着を図る。</p> <p>○個に応じた習熟・補修の指導の充実を図る。</p> <p>○授業改善に必要な指導技能の共有研修実施。</p> <p>○「家庭学習の手引き」をもとにして、各学年で個々の児童の実態に応じて、家庭と連携しながら家庭学習の定着を図る。</p> <p>○「学校図書館の利用について」に基づいて利用を促す。</p>	<p>○基本的な学習習慣が定着するよう指導している。できている 83% できていない 4% わからない 13%</p> <p>《意見》 ・先生が一生懸命してくれていることがよく分かる。ありがたい。 ・学校生活や自宅での学習方法などアドバイスをもらったり、相談や配慮して頂き助かっている。 ・親が教えきれないところをいつも丁寧に教えて頂いている。 ・学校教育が難しくなってきたなか、いつも一生懸命指導して頂いて感謝している。 ・自学ノートなど、自ら考えて勉強するような宿題があるとよい。 ・タブレットだけの宿題で、学力が上っているのが心配。 ・厳しい先生、優しい先生で急に今までの方針がガラッと変わる。例えば、汚い字は書き直さないといけなかったのに学年変わって先生が優しくなると汚い字のままなど。</p>	<p>○保護者からのアンケートで「できている」が83%と実感が高く、多くの家庭が学校の指導を評価している状況にある。</p> <p>○相手に伝わる話し方がもう少しできると良い。学習の中で発表の機会を確保してほしい。</p> <p>○高学年には、iPadを通じて宿題を出せるAIアプリを導入するなど、時代に合わせた学習方法を取り入れており、今後も学習効率の向上に率先して取り組んで欲しい。</p> <p>○読書は、創造力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊か心を育むので、たくさん本を読んで欲しい。</p> <p>○ただ書くだけでなく、鉛筆の持ち方、書き順などを練習して、いねいに書くことも大事ではないか。</p>	<p>○自分の考えや調べたことを正確に分かりやすく伝えることができるよう発表の機会を増やす。</p> <p>○一斉授業と個別進度学習を組み合わせるなど、授業改善に努める。</p> <p>○授業にICTを活用し、学習効率の向上や適切な評価につながる。</p> <p>○学習規律について、全学年で統一する内容と発達の段階に合わせた学年ごとの内容について整理する。</p> <p>○特に低学年において、鉛筆の持ち方や書き順などを意識させながら授業を進める。</p>	
(2) 積極的な生徒指導の充実と豊かな心の育成	<p>① スクールワイドPBS手法を活用した児童への行動支援の推進</p> <p>② 道徳教育・教育相談等の確実な実施(人権・規程意識の向上、いじめ防止)</p> <p>③ 安全教育の徹底と危険予想力の醸成</p>	<p>○スクールワイドPBSに基づいた教育実践を通して、児童の望ましい行動の定着を図る。</p> <p>○計画的に教育相談を実施し、実態把握の参考にする。必要に応じて会議を開き、全職員で対応する。</p> <p>○いじめ・不登校対策会議を計画的に設定し、全職員の共通理解を図るために報告を行う。</p> <p>○自主的に避難する防災意識の高揚を図る。</p> <p>○放送や学級での指導を通して、登下校や交通の安全についての指導を徹底する。</p>	<p>○児童の良い面をほめて伸ばすような指導をしている。できている 72% できていない 6% わからない 22%</p> <p>○思いやりを育む道徳教育や人権教育に取り組んでいる。できている 71% できていない 7% わからない 22%</p> <p>○登下校時や災害時を想定した安全教育に取り組んでいる。できている 70% できていない 5% わからない 25%</p> <p>《意見》 ・みんなが伸び伸びと学べる場だと思う。 ・もっと伸び伸び生徒の個性を生かしてほしい。少し堅い。 ・自分から挨拶や会釈をしよう等の指導をもっと欲しい。 ・子供達の挨拶が小さく、こちらからしないと挨拶がない。 ・防犯対策の為に、学校外でも自らあいさつが出来るように指導をお願いしたい。親が見本を見せても、あまり効果がない。 ・先生から言われた方が効果がある。 ・坂を走って下校している児童が多く見られる。 ・SNSやオンラインゲーム等に過度に敵視している印象を受ける。向き合い方や一定のルール・ガイドラインを策定して許容範囲を広げるべき。</p>	<p>○児童一人一人の個性を伸ばしていくよう取り組んでいたと思います。</p> <p>○豊かな心育成は学校現場だけではなく、保護者の協力無くしては成り立たない。学校任せにせず、率先して保護者も関わっていただくために、まずはPTA活動等子ども達の育成に関わっていただける方々をもっと全面に立たせる機会を作り、育成活動への理解や周知を行う取組を行っていただきたい。知り合いが活動に関わっていると知れば、参加へのハードルも下がり、横の繋がりも広がり、保護者の参画を促すことができるのではないかと。</p> <p>○防災に関する学習は、消防署や防災ネットワークを利用し、学年毎に行っても良いのではないかと。</p> <p>○難しいかもしれないが、学校が避難所になった場合を想定して、地域の協力を得る訓練を行うことも大事ではないかと。</p> <p>○道に広がって歩かないなど、安全な登下校の仕方について指導してほしい。</p>	<p>○スクールワイドPBSの実践を継続し、学校全体での目標を明確に示し、良い面を賞賛することで児童の望ましい行動の定着を図る。</p> <p>○学校でも地域でも挨拶ができる児童を育成するために、あいさつ運動期間などにおける保護者の協力をお願いしていく。</p> <p>○SNSやオンラインゲームがいじめやトラブルにつながる可能性が高いことをデータや実例を用いて保護者と児童に伝えていく。</p> <p>○避難訓練や交通安全教室の内容をさらに充実させ、災害や事故などを想定しながら自分で自分の命を守る意識を高めていく。</p>	
(3) 健康教育の推進と体力の向上	<p>① 保健・衛生指導の充実と健康的な生活習慣の確立(睡眠時間の確保等)</p> <p>② 体育指導の充実と運動の日常化推進(なわとび)による体力向上</p> <p>③ 児童が安全に活動できる施設環境の整備・充実</p>	<p>○新型コロナウイルス感染対策など保健衛生意識の高揚を図る。</p> <p>○児童の健康状態の適切な把握と早期対応の充実を図る。</p> <p>○性に関する指導などを計画的に実施する。</p> <p>○弁当の日の設定など食育指導の充実を図る。</p> <p>○体育科の教材・教具の効果的な活用を図り体力向上を目指す。</p> <p>○体育的行事の充実を図る。</p> <p>○校内施設の定期的な安全点検の確実な実施。</p>	<p>○学校は保健・衛生面の指導を行っている。できている 73% できていない 6% わからない 21%</p> <p>○体育指導の充実と体力向上に努めている。できている 71% できていない 5% わからない 24%</p> <p>《意見》 ・インフルエンザが流行しているので、クラスでの手洗いやうがい、マスク着用を徹底してほしい。 ・感染者がら人以上クラスにでたら、保護者に報告してほしい。 ・流行が始まる時期等を予測して、全員にマスク着用等の感染防止の声掛けが早いとよかった。 ・運動会や持久走など運動面の向上に取り組んで頂きありがたい。 ・低学年への持久力の向上等の取り組みを強化してほしい。</p>	<p>○うがい・手洗いは一年を通して継続してほしい。</p> <p>○水飲み場や手洗い場が清潔に保たれている。</p> <p>○体力テストの結果をもとに苦手な点を補う取組をしている。その方法として「時間を増やして練習させる」という量の視点ではなく、二重跳びを成功しやすくする「ジャンプ台」や投力を高める「ロープ遊び」を設置して、成功体験や自発力を刺激するアイテムを自作して補っていく手立てがとても良い。</p> <p>○自分の体力レベルにあった目標や課題が設定できれば、運動する楽しさを味わうことができる。頑張ればできるという体験の積み重ねが忍耐力にもつながると思う。</p>	<p>○手洗い・うがいなど保健衛生面の指導は、コロナウイルスやインフルエンザ流行時のみならず常時行っていく。</p> <p>○5月に実施する体力テストの結果を踏まえ、子ども達が楽しんで挑戦し、体力向上を図ることができるような手立てを講じていく。</p> <p>○運動場の遊具など施設の安全点検を継続して行い、危険性が少しでも考えられる場合は市教育委員会へ修繕などを依頼する。</p>	
(4) 個性を生かす特別支援教育の充実	<p>① 児童一人一人のニーズに応じた指導・支援の充実(個別の指導計画・教育支援計画の適切な活用)</p> <p>② 保護者・学級担任及び諸機関との連携の強化による支援体制の充実</p> <p>③ 児童や保護者等への特別支援教育に関する啓発推進</p>	<p>○児童の実態を把握し、諸機関との連携を図り、適切な指導の工夫に努める。</p> <p>○地域、保護者、学級担任等との連携を図り、校内支援体制の整備に努める。</p> <p>○特別支援学級、通級指導教室と通常学級との連携を図りながら交流学習を進め、豊かな情操教育に努める。</p>	<p>○特別な配慮や支援が必要な児童への教育に取り組んでいる。できている 70% できていない 8% わからない 22%</p> <p>○教育相談やアンケートを通して一人一人の理解に努めている。できている 72% できていない 5% わからない 23%</p> <p>《意見》 ・少人数クラスだが、本人のこだわりや症状に合わせて対応して頂きありがたい。 ・子供の心に寄り添い、不安を払拭してくれ安心して登校している。 ・我が子が、なかなか上手く言葉に出来ず、また、言っていないのか悩んでいた時、担任の先生にアドバイスをもらい助けてもらった。</p>	<p>○特別支援学級の充実もあり、誰でも安心して通える体制になっていると思う。ただし、充実しているがために先生達の負担増になっているのではないかとと思われる。教育現場にゆとりがある方が安全安心な教育環境になると思うので、職員の数を増やしていくなどの対応が求められるのではないかと。</p> <p>○特別支援学級の児童が通常学級でも楽しく過ごせる環境づくりをお願いしたい。それぞれが生きる活力や前向きになれることを発見してほしい。</p> <p>○不得意なところを無理に改善するのではなく、得意なところを伸ばすことも大事である。</p>	<p>○特別な配慮や支援が必要な児童が安心して学校生活を送ることができるよう、職員の共通理解を図るため、定期的に実施する会議に加え、必要に応じて会議等を実施する。</p> <p>○通常学級においても個別の支援を必要とする児童がいることから、学級担任、特別支援コーディネーター、管理職と可能な支援を考えていく。</p>	